

研究機関：広島大学

研究課題名	肺切除術式が術後の全身状態に及ぼす影響に関する検討
研究責任者名	原爆放射線医科学研究所 放射線災害医療研究センター 腫瘍外科 教授 岡田 守人
研究期間	2022年 7月(倫理委員会承認後)～ 2029年 3月31日
対象者	倫理審査委員会承認後～2026年 3月 31日の間に、広島大学病院呼吸器外科で呼吸器悪性腫瘍の手術を受けられる患者さん。
意義・目的	<p>肺切除術は心肺機能のみならず握力や骨格筋量を指標としたサルコペニアや栄養状態、生活の質(Quality of life; QOL)、手段的日常生活動作(Instrumental Activities of Daily Living; IADL)などの全身状態に影響を与える事が知られています。手術侵襲がこれらの全身状態に及ぼす影響は肺切除範囲によって異なることが予想されますが、これまで明らかにされていません。</p> <p>本研究では、手術前後の全身状態を比較することで肺切除範囲毎に手術が全身状態に及ぼす影響を明らかにすることを目的としています。本研究の結果は肺切除術式の侵襲性を示す新たな指標となるだけでなく、本研究の結果を基に術後合併症や死亡リスクの高い患者さんを術前に選別することができれば、患者さん個々の全身機能に合わせたより適切な術式を選択することが可能です。</p>
方法	<p>当院で肺切除術を施行する患者さんを対象に、肺切除術式と手術前後の全身状態の変化を検索します。日常診療の一環として測定する、サルコペニア状態の評価のための体組成測定値と握力、質問票を用いて評価したQOLやIADLの評価値を用い、これらの手術前後の変化と肺切除術式の関係を検索します。その他、年齢、性別、喫煙歴、喫煙指数、呼吸機能、画像検査での間質性肺炎や肺気腫の有無、腫瘍の特徴、病期、顕微鏡検査での腫瘍や肺の特徴、手術時間、出血量、癒着の有無、合併症の有無、切除部位、切除肺容積、予後などの情報も用いて、肺切除術式と全身機能の関係を検索します。(個人を特定可能な情報は解析に用いません)</p>
共同研究機関	なし
試料・情報の管理責任者	原爆放射線医科学研究所 放射線災害医療研究センター 腫瘍外科 教授 岡田 守人
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。</p>
問合せ・苦情等の窓口	<p>〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel : 082-257-5476 広島大学病院 呼吸器外科 見前 隆洋</p>